

令和3年度 修了式 式辞 (R4.3.24)

校長 高瀬 知郎

駐車場にそびえていた雪の山もいつしか消え去り、温かな日差しに木々の芽が膨らむ今日、令和3年度の修了式を迎えました。

先日の卒業式で3年生は雄中を巣立っていったので、残された1, 2年生と教職員で令和3年度を締めくくることになります。

今年度も新型コロナへの対応に追われる1年でした。修学旅行は県内の代替旅行となり、「14歳の挑戦」も校内行事として実施せざるを得ませんでした。しかし、昨年度と違い、できたこともあります。大きかったのは部活動の大会が開催されたこと。3年生部員を中心に、多くの部が県大会に進出。中には、北信越・全国へと駒を進めた部もあり、学校を大いに活気づけてくれました。部活動を通して、自分の成長を実感できた人もいるのではないのでしょうか。

また、一か月半も延期になったにもかかわらず、3年生の強力なリードで盛り上がった体育大会は、雄中生の力が一つになった今年度最高の名場面でした。そのあとの合唱コンクールも大成功。1, 2年生の校外学習も実現し、目標を達成することができました。コロナ禍にあっても、雄中生はよくがんばりました。

そして、3学期。3月10日の「卒業を祝う会」には本当に驚かされました。これほど盛大で力が入った祝う会を見たのは初めてかもしれません。1か月以上も前から計画を立て、準備に時間をかけて、学年全員で作りに上げた劇を見て、3年生は大盛り上がり。「雄中りくンジャーズ」も「雄中の刃～義務教育編～」も、取材と作り込みが半端なく、そのクオリティーの高さと面白さに3年生は大喜びしていました。

話は変わりますが、実は、私は、3月15日に卒業式が終わった後も、ずっと卒業式のことを繰り返し思い出していました。あまりにもすばらしい式だったからです。卒業証書を手渡すとき、「おめでとう」の気持ちを伝えようと一人一人の目を見て渡していたのですが、その目の素直さ・純粹さに心を打たれ、何とも言えない幸せを感じたほどです。卒業合唱「あなたへ」の歌声の美しさ、前庭での解散式の晴れやかさ、学校を巣立っていく笑顔の爽やかさ、どの場面を思い出してもキラキラしていて、美しい絵を見ているようでした。

なぜ3年生は、あんなにも清々しく爽やかに巣立って行くことができたんだろう。何度も思い出しては考えていたのですが、「これだ」という答えを見つけられずにいました。しかし、先週、廊下を歩いていて、その答えを発見しました。3年生から1,2年生に宛てたメッセージの中に……。

一枚一枚読んでみると……、3年生には卒業を祝う会の出し物がよほどうれしかったのでしょ、そこには感謝の言葉があふれていました。「みんなありがとう。うれしかったよ。これで高校へ行ってがんばれます」「祝う会の劇、最高やった！たくさん笑ったし、たくさん楽しませてもらった。ありがとう！！」「ラン走から、バルーンと垂れ幕が下がってきたとき、涙が出そうになりました」等々。卒業式で3年生が、あんなにも立派だったのは「自分たちのためにがんばってくれた下級生の真心に応えたい」という1,2年生への感謝があったからなのでしょう。

下級生が3年生への感謝を込めて準備し、3年生は下級生の思いに応えようと「最高の卒業式」で応える。なんと素敵な学年を超えた交流でしょう。私の中で、その一連のやりとりがつながり、雄中生の心の中に目には見えない太い絆ができていたことを理解しました。同時に、これまで雄山中学校が大事にしてきたものをしみじみと感じ取り、深い感動に包まれました。

明日から12日間の学年末休業に入ります。次に登校してきたとき、皆さんは最上級生と中堅学年。そして、新たな雄中生220名を迎えて令和4年度が始まります。素敵な姿を見せてくれた卒業生に恥じない学校づくりを、またみんなで力を合わせてやっていきましょう。

令和4年度、先輩たちから引き継いだ雄山中学校をどんな学校にしていくか、そのために自分に何ができるか、一人一人が「学校づくりの主演」として真剣に考えてきてください。そして、4月6日、笑顔とやる気をいっぱい携えて、登校してきてください。

待っています！